

水俣の風土 ダンスで表現

フランス人舞踏家のフィリップ・シエールさん(47)とジュリー・サルグさん(45)が、水俣市一帯で水俣病や水俣の風土を題材にする。



コンテンポラリーダンスのワークショップで参加者とともに踊るフランス人舞踏家のジュリー・サルグさん(左)とフィリップ・シエールさん(右) 水俣市

仏舞踏家2人創作 19日披露へ

2人は、不随意運動の症状がある難病ハンチントン病患者の心身回復のために、ダンスを活用したセラピーに取り組んでいる。10日に水俣入り。すでに水俣病患者や支援者とワークショップを開いており、幼児や高齢者ら地域住民とのワークショップも計画している。

14日は、21歳で亡くなった胎児性患者上村智子さんの遺品が納められた水俣市袋の乙女塚を訪問し、ワークショップ参加者とともに塚の前で踊った。フィリップさんは「水俣病で亡くなった人のことを理解するとともに、この場所からインスピレーションを受けた」と話した。

19日のパフォーマンスとワークショップは午後1時半から。無料。市立水俣病資料館☎0966(62)2621。(山本遼)